

高倉宮靈廟たかくらのみやれいべうは玉水たまみづの南、鳥居村とりゐの東にあり。後白河院第二の皇子茂仁親王もちひとしんわうなり。洛三條高倉みやこさんどうたかくらに御殿ありしゆゑ高倉宮くらのみやとぞ称しける。〔平家物語へいけものがたり曰、宮は南都なんとへや落させ給ふらんとて、混甲四五百騎鞭鐙を合せて追かけ奉る。案の如く宮は三十騎ばかりで落させ給ふ所を、光明山くわうみやうせんの鳥居の前にて追つき奉り、雨のふるやうに射奉りければ、何れが矢とは知らねども、矢一つ来て宮の左の御側腹に立ければ、御馬より落させ給ひて御頸取られ給ひけり。云云〕

光明山寺旧跡くわうみやうせんじのきうせき〔鳥居村とりゐの南、綺田かはたのひがし山上にあり〕地獄谷ちごくだに〔綺田かはたの北にあり〕